

土
修身政訓孝範述
四刻卷一

167

282
5
258

K110.1
156b
1

K110.1

156b

共岐政孝述 四刻

修身訓範

東京書肆

青山堂發兌



修身訓範序

學問之道廣矣。而其本在修身。故大
孝立教。自修身推而及治國。平天
下。六經百家之書。其言雖多。皆不外
于此也。夫六經簡奧。未易遽通。而百

四
序

家之言有醱有疵。極難抉擇。苟非
別白而疏通之。則恐不能無多岐之
惑矣。方今文教日盛。阨邑僻地。無不
有學校之設。然其所授受。大抵器
數名物之學。所謂修身齊家之教。較

之昔日。似少遜焉。士岐友于。有慨于
此。著修身訓範若干卷。其書采古人
確言。譯而通之。詮而解之。要不離六
經之旨。其意至深切也。吳磊齋曰。
子第一讀書。則百疾皆除。有旨哉。

言乎。如此書則庶幾矣。

明治十三年八月念八日

拙軒學人村山瀆撰



修身訓範例言

一是書ハ小學兒童ノ爲ニ訓誡模範トナルベキ古今名賢ノ格言ヲ採擇シ聊己ガ卑見ヲ加ヘテ修身ノ讀本トスル者ナリ今其出典ヲ掲ゲザル者ハ繁ヲ厭ヘバナリ

一修身ノ道男女途ヲ異ニスルコトナシト言フ者アラシ然レドモ男子ハ多ク外ニ關シ女子ハ常ニ内ヲ治ムル者ナレバ其心得ベキ事モ亦自廣狹淺深ナクバアルベカラズ今夫ノ道ヲ説キテ妻ノ道ヲ論ゼズ父ノ道ヲ擧ゲテ母

ノ道ニ及ボサミル者ハ專ラ男子ノ爲ニ設クル
ヲ以テナリ

一是編己ニ稿ヲ脱シ德淳村山君ニ訂正ヲ乞フ
君一讀シテ理義精到今人著述中所希觀也ノ
評語アリ後又千穎稻垣君ニ就キテ批閱ヲ求
ム君亦一過シテ心ヲ、シク詞正シ長ニ幼ニ
賢ニ愚ニカナフイミシキ教ブミナリト賞揚
セラル過褒敢ヘテ當ラズト雖モ二公ノ惠亦没
スベカラズ因リテ茲ニ一言ヲ附ス

明治十三年七月

政孝誌

修身訓範目錄

卷一

心術
言語

卷二

行狀
立志
學問

卷三

子ノ道

兄弟ノ道

夫ノ道

父ノ道

親族ノ道

師弟ノ道

朋友ノ道

主從ノ道

交際ノ道

修身訓範卷一

東京 土岐政孝 述

心術

第一章

夫レ人ノ萬物ニ長トシテ貴バル、所以ノ者ハ、至善ナル徳性ト、至明ナル智識トヲ具ヘテ、心術、言行、學問、事業、遠ク群類ノ上ニ出ヅレバナリ、人若、徳ヲ養ハズ、智ヲ研カズ、蠢爾トシテ一生ヲ虚過セバ、畜ニ禽獸ニ異ナラザルノミナラズ、水石

ニダニモ劣レル者トイフベシ、草木言ハズ、金石心ナシト雖、天然ノ性ヲ全クシ、各分ニ應ジテ、世ノ利用ヲ贍セリ、人トシテ豈庶物ニ恥ヂザランヤ、人ノ道甚大ニ、世ノ事甚繁シト雖、身ヲ修ムルヨリ先ナルハナシ、身ノ本ハ心ニ在リ、心ハ一身ノ主宰ニシテ、萬事ニ應接シ、正邪ノ分ル、所善惡ノ判ル、所ナレバ、其心正シキトキハ、其行モ正シク、其心邪ナルトキハ、其行モ邪ナリ、故ニ身ヲ修メント欲セバ、其心ヲ正シクスルヲ始トス、天下ノ公理ヲ以テ心トシ、一點ノ私曲ヲ存セザ

ル、是ヲ其心ヲ正シクストイフ、

第二章

事物ノ道理ヲ鑒別スル、之ヲ識見トイフ、是ハ善ナリ、是ハ不善ナリ、此事ハ取ルベク、此事ハ取ルベカラズト、一事一物悉、其當否ヲ判定シテ、毫髮モ其心ヲ曲從スベカラズ、識見ナクシテ、妄ニ是非ヲ議スル者ヲ、矮人ノ場ヲ觀ルニ譬ス、身軀短小ナル者ハ、己ガ眼ヲ以テ、演技ノ巧拙ヲ視ルコト能ハズ、只、人ノ後ニ隨ヒ、人ノ評ヲ聞キテ、竊ニ之ヲ説クノミナリ、人ノ定識ナキ、甲ノ論ヲ聞キ

テハ、甲ニ服シ、乙ノ説ヲ聞キテハ、乙ニ從フ、是亦何ゾ矮人ニ異ナラン、彼ノ長ヲ取リ、此短ヲ去リ、參酌シテ而シテ、自善惡曲直ヲ定ムベシ、

第三章

道理ヲ分別スル心ヲ思考トイフ、思考ハ、精細ニシテ、詳密ナルヲ善シトス、人ノ論議ヲ聽クガ如キ、其大體ハ允當ニシテ、細目ニ不可ナル處アル者アリ、又細目ノ中、二三ノ取ルベキ所アリト雖、大體ニ於テ、不可ナル者アリ、智者ノ言ニモ、理ニ背キタルアリ、愚者ノ言ニモ、理ニ當レルアリ、精

細ニ思考シ、詳密ニ分別セザルトキハ、理非ヲ倒了スル憂ナキコト能ハズ、

第四章

人ノ我ニ向ヒテ述バル所ノ道理ヲ判定センニハ、其心ヲ沈定スベシ、冷眼ニ人ヲ觀、冷耳ニ語ヲ聽キ、冷情ニ感ニ當タリ、冷心ニ理ヲ思フトテ、少シモ外物ニ移動セラレズ、縱令其人、俊才ナリトモ、畏ル、コトナク、其人、凡庸ナリトモ、侮ルコトナク、唯其言ノ理ニ當レリヤ否ヤヲ考フベシ、是ヲ沈定トイフ、人動モスレバ、其心ヲ沈定スルコ

ト能ハズシテ、輕シク人ノ言ニ誘ハレ、終ニ其正理ヲ錯認スルニ至ル、之ヲ輕躁トイヒテ、識者ノ取ラザル所ナリ、

第五章

事物ノ道理ヲ分別スルハ、唯是ト非トノ間ニ於テ安著スベシ、輕躁ハ固ヨリ識者ノ憂フル所ニシテ、固執モ亦識者ノ取ラザル所ナリ、彼ノ固執ナル者ハ、終始己ガ偏見ヲ執リテ顧ミズ、輕躁ハ敏捷ト同ジカラズ、固執ハ眞確ト異ナリ、我が説是ナラバ、須我が説ヲ守ルベク、人ノ論是ナラバ、

須人ノ論ニ從フベシ、而シテ後ニ始メテ理ノ中ヲ見ルベキナリ、

第六章

固執ト輕躁トハ、共ニ戒ムベクシテ、其最戒ムベキハ、輕躁ノ病ナリ、人動モスレバ、心情捷警ニシテ、善ク人ト合同スル者ヲ、才子ト稱ス、眞ノ才子ハ却リテ然ラズ、深沈ニシテ識量アリ、明ニ事ノ得失ヲ辨ジテ、大事ニ任ズベシ、輕躁ナル者ハ、小才アリト雖事ニ耐ヘズ、況ヤ才ナクシテ浮薄ナル者ヲヤ、故ニ才子ハ、必輕躁ナラズ、輕躁ナル者

ハ、以テ才子ト稱スベカラザルナリ、

第七章

其心ヲ沈定シテ、百事精細ニ思考セバ、如何ナル
奇怪非常ニ遇フトモ、其道理ヲ得テ識別セラレ
ベシ、故ニ突然ニ奇怪ノ事ヲ見、非常ノ事ヲ聞ク
トモ、決シテ駭愕スルコトアルベカラズ、凡事、遠
爾ニ耳目ニ觸ル、トキハ、甚奇怪非常ナルガ如
シト雖、審ニ察シ、明ニ鑒ミルトキハ、皆必由リテ
來ル所アリ、其因由ナクシテ、其形跡ヲ見ス者ハ、
未嘗テアルベカラズ、奇ニ遇ヒ怪ニ逢ハズ、故ニ

其心ヲ沈定シテ、其因由ヲ搜討スベシ、必明晰ニ
分解スルコトヲ得ベシ、奇ニ驚キ異ニ駭ケバ、見
識濟セズトイヘリ、

第八章

人一事ヲ行ハント欲セバ、必豫之ヲ慮ルベシ、凡
事、豫スレバ則チ立チ、豫セザレバ則チ廢ストイヒテ、
何事ニテモ、作爲セント欲セバ、未事ニ從ハザル
前ニ於テ、詳ニ之ヲ計畫スベシ、若之ガ計畫ヲ施
サズシテ、卒然事ニ臨マバ、容易ナル事ヲモ、錯倒
スベシ、况ヤ事ノ重大ナルニ於テヤ、審思熟計

シテスエ、猶事ニ臨ミテ、不測ノ變アリ、況ヤ嘗テ
之ガ考慮ヲ經ザルニ於テヲヤ、事ニ臨ミテ、百方
苦慮センヨリハ、豫之ヲ計畫スルニ如カズ、未雨
アラザルニ綢繆スベク、渴スルニ臨ミテ、井ヲ掘
ルコトナカレトハ、是ヲイフナリ、

第九章

人ハ又果斷ノ氣象ヲ有スベシ、既ニ再三ノ思考
ヲ經テ、理ニ於テ當レリト思ハ、之ヲ決スルニ
果斷ヲ以テスベシ、若只反覆考思スルノミニシ
テ、勇斷果決ノ氣象ニ乏シキトキハ、支離鶻突ニ

シテ、依違決セズ、往往事機ヲ誤ル者ナリ、然リト
雖、決斷輕遽ニ失スルトキハ、其害持重ヨリ甚シ、
故ニ事ヲ舉ゲント欲セバ、須先是非得失ヲ熟慮
スベシ、已ニ詳ニ之ヲ謀リ、明ニ其理ヲ窮メバ、則
斷乎トシテ之ヲ裁定スベシ、思慮ト果斷トハ相
待ツコト、輪翼ノ如クナル者ナリ、

第十章

人ハ道理ヲ鑒別スベキノミナラズ、亦人品ヲ鑒
識スベシ、人品萬異之ヲ見ルコト極メテ難シ、言
貌親切ニシテ、中心實ナキ者アリ、中心親切ニシ

テ言貌ニ見サツル者アリ人心ノ均シカラザル
コト其面ノ如ク一概ニ之ヲ判定スベカラズト
雖我ガ言行ヲ一一面前ニ賞讚スル者ハ多ク信
ズベカラザル徒ナリ巧ニ飾リ甘ク告グル者ハ
笑中ニ刃アリ又面譽スル者ハ背ニ必非トスト
イヒテ我ガ美ヲ頌シ我ニ諂フ者ハ退キテ他人
ト語ルニ及ビテ必我ガ非ヲ揚ゲテ我ヲ笑フ者
ナリ縱令背後ノ言ナキモ百事我ヲ譽ムル者ハ
畢竟我ニ益ナキ人ナリ

第十一章

世ニ人ノ意ヲ逢迎スル者アリ是察セズバアル
ベカラズ我ガ意ノ向フ所ヲ揣リテ先其端ヲ發
シ導キテ之ヲ迎へ我ヲシテ其說已ト暗合スル
ヲ喜バシム是其心卑屈ニシテ只人ニ阿附セン
ト欲スル者ニアラズバ我ガ意ニ投合シテ網利
ノ計ヲ求ムル者ナリ前ナル者ハ其術小ニシテ
後ナル者ハ其術巧ナリ而シテ並ニ識見ナキ小
人ナリ凡人ノ意ヲ逢迎スルバカリ卑ムベキ者
ハナシ他ノ逢迎ニハ陷ラザランコトヲ要シ吾
ハ他人ヲ逢迎スル卑心ヲ生ズベカラズ

第十二章

人ノ美事ヲ揚ゲテ我ニ譽ムル者アリ人ノ惡事ヲ訐ギテ我ニ毀ル者アリ毀譽ノ來ル妄ニ之ヲ信スベカラズ其之ヲ告グル者他人ト全ク相知ラザル者ナラバ其美惡再三ノ傳聞ニ因ルガ故ニ固ヨリ信ヲ置クベカラズ若クハ他人ト面交アル者ナラバ其言フ所稍實ニ近シト雖亦往往眞ヲ誤ル者アリ或ハ平生相親暱シ或ハ庇蔭ヲ受クルガ爲ニ之ヲ譽メ或ハ平生相善カラズ或ハ救濟ヲ求メテ得ザルガ故ニ之ヲ毀ル者ナキ

ニアラズ況ヤ惡人ハ善人ヲ指シテ惡トイヒ奸人ハ正人ヲ指シテ奸トイフ是所謂毀譽善惡ヲ亂ル者ナリ揄揚ト讒毀トハ共ニ輕シク信聽スベカラズ

第十三章

人ハ又英氣ヲ存セスバアルベカラズ英氣トハ己ヲ恃ミテ人ニ依ラズ自助ケテ人ヲ仰ガザルノ謂ナリ己ヲ恃ム心ナキトキハ其氣常ニ餒エテ碌碌人ノ後ニ立ツベシ自助クル心ナキトキハ徒ニ人ノ鼻息ヲ仰ギテ何ノ日カ頭角ヲ露ス

コトヲ得ン、自恃^ミ之自助^ミケント欲セバ、心ニ卑劣ノ念ヲ畜ヘ、身ニ賤汚ノ行ヲナスベカラズ、必^ス端正純一ニシテ、道理ヲ枉グルコトナカレ、卑劣賤汚ナル者ハ、其氣伸暢セズ、只區區トシテ人ニ容レラレントコトヲ願フニ過ギズ、大丈夫ハ人ヲ容レントスベク、人ニ容レラレントハスベカラザルナリ、

第十四章

自恃^ミ之自助^ミクル者ハ、人ノ恩惠ヲ受クベカラズ、勤ト儉トヲ以テ自保^ス夫、一飯一縑ト雖^モ故ナクシ

テ之ヲ人ニ受ケズ、恩ヲ受クルコト多ケレバ、以テ朝ニ立チ難シトイヒテ、苟^モ氣概アル者ハ、古ヨリ人ノ蔭助ヲ仰グコトヲ戒メタリ、志士ハ恩ヲ人ニ加ヘントコソ願フベケレ、人ヨリ恩ヲ受ケンコトヲ望ムベカラズ、

第十五章

勤儉ノ心ハ、自立ツノ大本ナリ、豈營營トシテ小利ヲ貪ルノ謂ナランヤ、怠惰ナル者ハ、其業ヲ振フコト能ハズ、仗侈ナル者ハ、其産ヲ興スコト能ハズ、其業振ハズ、其産興ラザレバ、供給常ニ不足

ヲ生ズ、供給不足ナルガ故ニ、卑心頓ニ生ジ、動モスレバ、人ニ依リテ、便ヲ謀ラント欲ス、勤儉ノ徳ヲ全クスル者ハ、其心綽綽トシテ、餘裕アリ、復誰ニ向ヒテ、幫助ヲ求メン、已ニ幫助ヲ求ムル念ナキトキハ、其心廓大ニシテ、英氣自發スル者ナリ

第十六章

凡事ヲ處スル、理ニ當リテ、慙ヅベキコトナクハ、其氣力ヲ壯盛ニシテ、之ヲ力行スベシ、氣力壯盛ナルトキハ、舉體失錯ナク、氣力畏縮スルトキハ、假令學術技倆アリト雖、自挫敗ヲ取ル者ナリ、氣

カヲ養フハ、別ニ法アルニアラズ、事ニ臨ミテ、自顧ニ、我がスル所理ニ合フヤ否ヤヲ案ジ、其言行果シテ理ニ合フコトヲ信ゼバ、精神ヲ一途ニ集メテ、外物ニ移動セラレザランコトヲ要スベシ、世ニ理ヲ持チテ、非ニ落ツトイフコトアリ、是怯懦ニシテ、氣力乏シキガ故ナリ

第十七章

家ハ小ナリトモ、心ハ廣ク持ツベシトイヘリ、心ヲ存スル廣大ナルト、狭小ナルトハ、身地ノ尊卑、資産ノ厚薄ニ因ルベカラズ、人ノ稟性ハ天授ナ

リ、高下貴賤ノ等差ナシ之ヲ存養セバ、賤者モ貴ムベク、之ガ省察ヲ加ヘザラバ、貴客モ賤ムベキ心トナル、大厦ニ住シ、方丈ニ飽キ、輕車肥馬ノ尊榮ヲ占ムレドモ、其心ノ局促ナルコト、匹夫匹婦ニ劣レル者アリ、茅屋ニ拙ニ、糲飯ニ活シ、弊袍縷ノ寒素ニ居レドモ、其心寛裕ニシテ、通顯紳士ニ超ユル者アリ、思ハズバアルベカラズ、

第十八章

人ハ常ニ神氣ヲ快爽ニスベシ、内ニ省ミテ、疚シカラザレバ、心自怡悦シテ、歡樂餘リアリ、是人ノ

性ノ善ナル所以ナリ、游手無能ノ徒ハ終日懶惰一ノ營ム所ナクシテ、其心情款然タリ、恒産アリ、常務アル者ハ、日夕汲汲トシテ、奔走勞苦スレドモ、其心情ハ豁然タリ、是懶惰ノ不善ニシテ、勤苦ノ善ナルガ故ニ、一ハ其心ヲシテ憂ヒシメ、一ハ其心ヲシテ喜バシムルナリ、故ニ神氣ハ快爽ナランコトヲ欲スルニハ、善ニ志シ、不善ニ遠カルヲ要トス、

第十九章

人ハ當ニ憂フベキ所ヲ憂ヒテ、憂フベカラザル

所ヲ憂フベカラズ、恥ヅベキ事ヲ恥ヂテ恥ヅベ
カラザル事ヲ恥ヅベカラズ、品行ノ修マラザル
學術ノ成ラザル、經濟勲業ノ壯大ナラザルハ人
ノ當ニ憂フベキ所ニシテ又恥ヅベキ事ナリ衣
服ノ惡シキ、飲食ノ粗ナル、居室器用ノ莊麗ナラ
ザルハ人ノ當ニ憂フベカラザル所ニシテ又恥
ヅベカラザル事ナリ常人ハ憂ヒズシテ可ナル
所ヲ憂ヒ、恥ヂズシテ可ナル事ヲ恥ヅ、故ニ學成
リ功立ツノ期ナシ志アル人ハ其本ヲ憂ヒテ其
末ヲ顧ミズ、

第二十章

人ノ富貴ヲ言フハ人ノ富貴ヲ羨ムナリ人ノ貧
賤ヲ言フハ人ノ貧賤ヲ笑フナリ惟、是一片ノ俗
心腸ナリトテ古ノ人深ク戒メラレタリ、富ト貴
トハ人ノ欲スル所ニシテ、貧ト賤トハ人ノ惡ム
所ナリト雖富貴ノ人必シモ賢者ナラズ、貧賤ノ
人必シモ不肖者ナラズ、今日富貴ナルモ、明日零
落スル者アリ、今日貧賤ナルモ、明日發跡スル者
アリ、豈輕シク人ノ身地ヲ見テ之ヲ歎羨憫笑ス
ベケンヤ、況ヤ人ノ富貴ハ、我が榮ニアラズ、人ノ

貧賤ハ我ガ辱ニアラザルヲヤ之ヲ羨ミ之ヲ笑
フハ徒ニ己ガ卑劣ヲ見ハスノミナリ

第二十一章

人其非ナルコトヲ知ラズシテ之ヲ行フヌ過ト
イス既ニ自其非ヲ悟ラバ速ニ之ヲ改ムベシ若
未其非ヲ悟ラザルニ他人之ヲ忠告スルコトア
ラバ謹ミテ其厚誼ヲ謝シ亦速ニ之ヲ改ムベシ
賢者ハ惟身ノ過アランコトヲ恐ル故ニ人ノ言
ヲ訪求シテ改ムルニ勇ナリ不肖者ハ人ノ言ヲ
聞キテ好ミテ之ヲ強辯シ自其非ヲ飾リテ人ノ

笑ヲ受クルコトヲ知ラズ自家ノ過失ハ掩フト
モ消ゼズ掩ヒテ得ザルトキハ又一短ヲ添フト
イヘリ謹ムベシ

第二十二章

人ノ善ヲ見テハ自倣フベク人ノ不善ヲ見テハ
自警ムベシ善ノ倣フベキハ論ヲ須タズ不善モ
亦吾ニ益ヲ與フル者ナリ人ノ放肆ヲ見テハ我
ニ反省シ人ノ怠惰ヲ見テハ我ニ反省シ人ノ暴
戾姦邪ヲ見テハ亦之ヲ我ニ反省シ凡人ノ非行
ヲ見テ自之ヲ警戒セバ至ル所皆吾ガ師ナリ故

ニ曰ク不善人ハ乃善人ノ資ナリト若不善人ヲ見テ之ト同惡相濟ヒ或ハ之ト雄長ヲ爭ハゞ徒ニ己ニ損アラシク

第二十三章

貴賤ノ別ナク驕傲ノ念ヲ戒ムベシ初貧窶ニシテ後ニ富厚トナリ本寒素ニシテ末ニ通顯トナル者ハ所謂世ノ賢人達士ナレバ固ヨリ富貴ヲ以テ人ニ驕ル念アルベカラズ況ヤ祖先ノ遺澤ニ因リテ資産裕ニ父兄ノ保庇ニ因リテ身地ヲ發スル者ノ如キハ自富顯ヲ致ス者ノ比ニアラ

ズ其徳器何ゾ常人ニ異ナラン此ノ如キ輩ハ尤深ク謙遜シテ人ノ輕侮ヲ避クベシ富貴ノ人スラ猶然リ貧賤ノ者妄ニ驕傲ナルトキハ誰カ之ヲ仰敬セン徒ニ指笑ヲ來スベシ

第二十四章

謙遜ハ其器ヲ大ニスル美德ナリ我が學問藝術ハ未完全ナラズ我が心術行狀ハ未缺失多シト思ヒテ長者ヲ師トシ日ニ月ニ跬步ヲ進ムルトキハ其底止スル所ヲ知ラズ是謙ノ益ヲ受クル所以ナリ若然ラズシテ我が學問藝術ハ既ニ精

到セリ、我が心術行狀ハ、既ニ善美ナリト思フト
キハ、人只、其謏陋ヲ笑フノミニシテ、誰カ之ヲ提
醒スル者アラシ、自滿スル者ハ、人ノ言ヲ容レズ、
故ニ人モ亦敢テ我ニ告グズトイヘリ、謹ミテ自
足レリトスルコトナカレ、

第二十五章

萬事皆人ニ讓リテ、己ハ只、退キテ獨ヲ守ラバ、謙
遜ノ徳ニ稱フベキカ、曰ク非ナリ、謙遜ハ満足ノ
反ニシテ、畏懦退縮ノ謂ニアラズ、人若、每事他ニ
讓リテ、獨ヲ守ラバ、是世ニ益ナク、時ニ功ナキ者

トイフベシ、人事萬狀、一概ニ謝スベカラズ、謙ス
ベキ處ハ、須、謙スベク、任ズベキ處ハ、須、任ズベシ、
其進ミテ任ズベキ處ニ於テ、退避スルハ、謙徳ト
イヒ難シ、是即、畏縮ニシテ、自己ノ權ヲ減殺スル
者ナリ、終身路ヲ讓ルトモ、百歩ヲ枉ゲズ、終身畔
ヲ讓ルトモ、一段ヲ失ハズトイヘリ、是語味フベ
シ、

第二十六章

任ズベキ處ハ、須、任ズベシ、日常瑣些ノ事ト雖モ、之
ヲ棄擲スルコトナカレ、煩ヲ厭フハ、人ノ大病ニ

シテ人事ノ廢弛シ、功業ノ成ラザル所以ナリ、蓋
事物ノ應接繁多ナリト雖皆是人ノ當ニ爲ベキ
分内ノ事ナリ、殊ニ學者ハ細務ヲ厭フ者ナレド
モ、務メテ之ヲ親センコトヲ要ス、且人事トイフ
者ハ、學問技藝ノ困難ニ比スレバ、甚容易ナルガ
如シト雖條緒百端、意ノ如クナラザルコト多シ、
世務ニ勞スル者ヲ、俗流ト笑フコトナカレ、人反
リテ其迂闊ヲ笑ハシ、

第二十七章

人事ヲ經歷スルハ、卽是活書ヲ讀ムナリトイヒ、

困心衡慮スレバ、智慧ヲ發揮シ、暖飽安逸ナレバ、
思慮ヲ埋没ストイヒ、一事ヲ經レバ、則一智ヲ長
カトイヘリ、困苦ハ人ノ良藥ナリ、甘ジテ之ヲ受
ク、毫モ厭棄スルコトナカレ、人天稟ノ才性アリ、
ト雖之ヲ研磨セザルトキハ、其光輝ヲ發スルコ
ト能ハズ、人平生ノ學識アリト雖之ヲ實驗セザ
ルトキハ、其運用ヲ活スルコト能ハズ、世務豈才
學ノ暢達ニ資ナシトイハンヤ、

第二十八章

平居無事ノ時ニ當リテハ、眾人ト異ナルコトナ

ク、艱難多事ニ遇ヒテ後ニ、其蘊畜スル所優ニシテ且長ズルヲ見ル、是ヲ真ノ才學アル人トイフ、若、大事重件ニ臨ミテ、之ヲ理ムル方ヲ錯亂スルトキハ、平日他ニ稱スベキ美事アリト雖、亦觀ルニ足ラズ、故ニ人ハ常時勤慎ニシテ、誇大ナラズ、一朝事ニ當ラバ、須カヲ用弁テ、其分ヲ盡スベキナリ、

第二十九章

己ガ情ノ好ム所ヲ愛シ、己ガ情ノ好マザル所ヲ憎ム、之ヲ愛憎ノ偏トイフ、人此念ヲ胸中ニ挾ム

トキハ、事ニ臨ミテ、公平ヲ失フ、其愛スル者ノスル所ハ、理ニ違フモ、之ヲ寛容シ、其憎ム者ノスル所ハ、道ニ合スルモ、之ヲ可稱セズ、人ノ主宰トナリ、尊長トナル者ハ、尤深ク之ヲ慎ムベシ、唯、理ノ在ル所ニ適從シ、道ノ存スル所ニ歸宿シ、偏愛偏憎ノ私心アルベカラズ、

第三十章

人ノ不幸ヲ喜ビ、人ノ福利ヲ欲セズ、人ノ薄命ヲ喜ビ、人ノ榮達ヲ欲セズ、人ノ美ヲ稱道スルヲ聞ケバ、忿然トシテ平ナラズ、人ノ我ニ如カザルヲ

聞ケバ、欣然トシテ笑快ス、人ノ發顯ヲ聞ケバ、額
ヲ蹙メテ愁ヒ、人ノ失敗ヲ聞ケバ、掌ヲ撫シテ悅
ズ、是ヲ妬忌ノ心トイフ、人ノ窮達ハ、我ニ關スル
者ニアラス、我が毀譽ハ、何ゾ人ニ加損セン、無益
ノ心ヲ勞シ、無用ノ言ヲ吐キテ、人ノ怨ヲ厚クス
ルハ、豈丈夫ノ心胸ナランヤ、

第三十一章

人ノ言ヲ聞テ、反復思繹シ、彼ハ我が何事ヲ譏リ、
彼ハ我が何事ヲ笑フナリト、臆測暗推スルヲ、猜
疑ノ心トイフ、聾者ハ人ノ言笑ヲ聞テ屢疑ス、是

其耳ノ暗キガ故ナリ、猜疑ノ人ハ耳明ニシテ猶
人ヲ疑フ、是其心ノ暗キガ故ナリ、蓋其疑フ所以
ノ者ハ、吾ガ言行上ニ於テ既ニ公正ナラザル所
アレバナリ、我ニ於テ公正ナラバ、何ゾ人ノ譏議
ヲ憂ヒン、何ゾ人ノ言笑ヲ懼レン、

第三十二章

人ニ辱シメラル、時ハ須暴怒ヲ制シ、辱ノ自リ
テ來ル所ヲ審ニ思フベシ、人吾ヲ罵リ、吾ヲ譴ム
ルニ、其言實ニ理ニ當ラバ、曲我ニ在リテ、直彼ニ
在リ、其譴罵スル人ハ、即吾ガ良師益友ナリ、怒ヲ

以テ之ニ應ズベキニアラズ、人吾ヲ罵リ、吾ヲ嘲ルニ、其言實ニ取ルベキナクバ、直我ニ在リテ、曲彼ニ在リ、其嘲罵スル人ハ、即俗夫ニシテ、與ニ長短ヲ較ブルニ足ラズ、假令稠人廣眾ノ中ニ於テスルモ、傍人自曲直ヲ判スルコトアラン、慎ミテ暴怒ヲ發スルコトナカレ、

第三十三章

人ハ尤怒ヲ慎マズバアルベカラズ、妄ニ之ヲ發スルトキハ、身ヲ害シ、事ヲ破リ、其禍測ルベカラズ、曰ク、然ラバ、人畢生怒ルコトナクシテ可ナラ

シカ、曰ク、事ノ怒ルベキナクバ、終身怒ラザルニ如クハナシ、然リト雖事ニ臨ミ、時ニ當リテ、或ハ怒ラザルヲ得ザルコトアリ、其怒ルベキ時事ニ際會シテ退縮スレバ、亦自喪敗ヲ取ルベシ、之ヲ發スルモ時アリ、之ヲ制スルモ時アリ、而シテ其事實ニ怒ルベキニ遇ハズ、嚴然トシテ屈セズ、所見持論ヲ貫徹スベシ、之ヲ言辭ニ怒リ、之ヲ顔貌ニ怒ルハ、齷齪タル庸人ノ所爲ナリ、事ニ益ナキノミナラズ、反リテ患害ヲ致サン、

第三十四章

愁モ亦自殺セズバアルベカラズ、人心ハ常ニ樂
易ナランコトヲ要スト雖憂患ニ遇ハ、愁ナキ
コト能ハズ、只之ヲ愁フルノ甚シキトキハ心身
ヲ傷ヒ、措置ヲ錯ルベシ、愁ヲ排シテ徐ニ料理ノ
方ヲ案ズルニ如カズ、心ニ愁フレバ、忽之ヲ言語
容貌ニ露シ、自以テ如何トモスベカラザルノ狀
ヲナスガ如キハ、丈夫ノ愧ヅル所ナリ、寢食ヲ忘
レテ憂悶ストモ、其愁頓ニ開散スベキニアラズ、
唯之ニ處スル道ヲ尋ヌルヲコソ、真ニ事ヲ憂フ
ル者トイフベケレ、

第三十五章

人ノ最抑制スベキハ情慾ナリ、其發スルニ任ズ
ルトキハ心身共ニ大ナル傷害ヲ受ク、身體ノ害
ハ、言フヲ俟タズ、其心ヲ害スル、極メテ甚シトス、
情慾熾ナルトキハ、天然ノ智識之ガ爲ニ愚鈍ト
ナリ、父兄師友ニ疎斥セラレ、日ニ其業ヲ荒怠シ
テ、昏忘ニ流ル、者ナリ、故ニ人ハ常ニ其心ヲ檢
束シテ、情慾ノ爲ニ使役セラレザランコトヲ務
ムベシ、常人ノ情ハ、纔ニ放肆ナルトキハ、日ニ曠
蕩ニ就キ、自檢束スルトキハ、日ニ規矩ニ就クト

イヘリ情慾ヲ抑制センコトヲ欲セバ、心ヲ學事ニ勞シ、身ヲ職業ニ役シテ、其念ヲ生ズルニ違ナカラシムルヲ善シトス。

第三十六章

人ハ實心ニ善ヲナシテ、惡ヲナサハランコトヲ願フベシ。人ニ知ラレンコトヲ欲シテ善ヲナシ、律ニ觸レンコトヲ恐レテ惡ヲナサハルハ、是、眞善ニアラズ。唯、善ヲ行フハ、人ノ本分ナリ。不善ヲ行ハザルモ、亦人ノ本分ナリ。是、禽獸ト異ナル所以ナリ。是、萬物ニ長タル所以ナリト認メ、假令法

網ノ及バザル冥冥地ト雖、不善ヲバナスベカラズ。耳目ノ及バザル暗暗裏ト雖、善ヲ行フベシ。是、則人ノ人タル所以ナリ。

第三十七章

人其心ヲ善ヲナスニ一ニシテ、他ニ求ムル所ナキトキハ、其施ス所廣ク、其行フ所大ナリ。若、名聞ヲ收メンガ爲ニスルトキハ、其心徳義ニ在ラズシテ、名利ニ在ルガ故ニ、聲聞立タズ、勢利得ザルトキハ、其心終ニ怠リ、其行終ニ廢ス。故ニ眞善ヲ行ハンコトヲ欲セバ、須徳義上ヨリ行フベク、名

聞ノ爲ニスベカラズ

第三十八章

敬天ノ道ハ人ノ道ヲ行フニ在リ人ノ人タル道
ヲ踐ミ行フトキハ自天心ニ合スベシ造物豈之
ヲ嫌棄セン愚俗ハ以爲ラ久神ニ祈リ鬼ニ禱ラ
バ分外ノ福ヲ得ベシト造物ノ神靈ナル豈人ノ
合掌拜咒ヲ待チテ之ニ幸福ヲ授ケンヤ故ニ人
善事ヲナシテ未遂ゲズ之ヲ神ニ禱リテ其冥助
ヲ求ムルハ君子ノ爲サザル所ナリ況ヤ惡事ヲ
ナサントシテ其成就ヲ求ムルヲヤ若非理ヲ行

ヒ、奸詐ヲナシテ神果シテ其言ヲ聽カバ、天下何
ゾ善ヲナス者アラシ、

言語

第一章

言語ハ人ノ才識ヲ見ル者ニシテ所謂一言以テ
知トシ、一言以テ不知トスル者ナレバ之ヲ發ス
ル、謹マズバアルベカラズ、凡事ヲ談ズルハ、簡寡
ニシテ確當ナルヲ貴ビ、冗長ニシテ繁絮ナルヲ
厭ス、其言理ニ當ラバ、多辯ヲ費サズシテ、達スベ
ク、理ニ當ラズバ、千百言ヲ重ヌトモ、人之ニ服セ

ザルベシ、話ノ多キハ、話ノ少キニ如カズ、話ノ少
キハ、話ノ好キニ如カズトイヘリ、妄ニ口舌ヲ費
シテ、其博ヲ售ラント欲ストモ、其胸中ニ蘊藉ナ
キ者ハ、只我が短ヲ露スノミナリ、識ノ狹博ハ、言
辭ノ多少ニ在ラズ、其識實ニ博ナラバ、片言隻辭
モ、自味アリ、彼ノ簡牘ヲ裁スル者ヲ見ユ、詞藻宏
富ナル者ハ、僅僅數言ニシテ、能ク面談ノ如クス
文辭拙劣ナル者ハ、多ク毫楮ヲ費セドモ、遂ニ己
ガ意ヲ盡スコト能ハズ、只文ノ蕪雜ヲ見ハスノ
ミ、士君子一言百ニ當リ、多言ニシテ、人ノ厭ヲ取

ルユトナカレ、

第二章

言語ノ弊ヲ少クセント欲セバ、簡寡ニ如カズ、言
語ノ弊ヲ杜ガント欲セバ、沈黙ニ如カズ、然リト
雖當ニ言フベキ時ニ臨ミテ言ハズ、辯ズベキ處
ニ於テ辯ゼズ、終日口ヲ掛スル者ヲ、言ヲ謹ムト
イフベカラズ、概此ノ如キ事機ニ當リテハ、或ハ
眾人ノ利害ニ關シ、或ハ身家ノ隆替ニ關シ、之ヲ
辯ズレバ、其理明ニスベク、之ヲ論ズレバ、其權伸
ブベシ、豈黙トシテ木偶ノ如クナルベケンヤ、

故ニ口ヲ開クモ時アリ口ヲ閉ヅルモ時アリ而シテ之ヲ開クニ當リテ亦謹慎ノ二字ヲ忘ルベカラズ

第三章

凡事之ヲ耳ニ聞クトモ未親シク見ザル者ハ隨ヒテ之ヲ話スベカラズ恐ラクハ無根ノ流言以テ眾人ノ視聽ヲ惑亂スベシ假令傳聞ノマヽニ之ヲ話スルモ猶真偽ヲ知ルベカラズ况ヤ更ニ臆度増損シテ人ニ傳フルヲヤ甚シキハ是非邪正相反スルニ至ルベシ若談話ノ次已ムコトヲ

得ズシテ傳聞ヲ説キ出スニ至ラバ必我ハ是ノ如ク聞ケリトイフベシ然ラバ則其事實ヲ失フコトアリト雖人吾ヲ咎メズ然レドモ全ク之ヲ説カザルノ善キニハ如カズ

第四章

人ハ造言ヲ戒ムベシ巧ニ事情ヲ捏造シテ人ヲ騙瞞セント欲ストモ首尾相合ハザルヲ以テ自敗露スル者ナリ古ニ楯ト矛トヲ市ニ賣ル者アリ楯ヲ賣ルトキハ如何ナル矛ニテモ破ルヽコトナシトイヒ矛ヲ賣ルトキハ如何ナル楯ニテ

モ、破レザルコトナシトイフ人^ノ之ヲ聞テ汝ガ矛
ヲ以テ汝ガ楯ヲ突カバ如何トイヒシニ彼ノ者
答フルコト能ハザリシトナリ固ニ淺近ノ喻言
ナレドモ此ノ如キ類世ニ往往是アリ謹ムベシ
常ニ虚誕ヲ説ク者ハ終ニ慣習トナリテ改ムル
コト能ハズ偶、眞實ノ言ヲ出ストモ人^ノ之ヲ信ゼ
ザルニ至ルベシ、

第五章

人ノ病ハ好ミテ其長ズル所ヲ談ズルニ在リ功
名ニ長ズル者ハ動モスレバ功名ニ誇リ文章ニ

長ズル者ハ動モスレバ文章ニ誇リ游歴ニ長ズ
ル者ハ動モスレバ其見ル所ノ山川ノ勝ニ誇リ
刑名ニ長ズル者ハ動モスレバ其讞獄ノ情ニ誇
ル是皆其長ズル所ヲ露シテ其長ズル所ヲ養フ
コト能ハズ智者ハ其長ヲ言ハズ故ニ能ク其長
ヲ保テリ故ニ自衒ヒ自矜ル者ハ名ヲ貪ルノ事
ニシテ又名ヲ喪フノ基ナリ實ヲ務メ自謙スル
者ハ名ヲ忘ルノ事ニシテ又名ヲ得ルノ基ナ
リ之ヲ言フハ難キニアラズ之ヲ行フヲ難シト
ス思フベシ

第六章

言ハ行ノ半ニスベシ我一丈ノ物ヲ造リ出サント思ハゞ人ニハ先之ヲ五尺ト語ルベシ他日成績ヲ收ムルコト其言ニ倍セバ人モ亦大ニ其力ヲ感ズベシ若五尺ノ物ヲ造ラントシテ之ヲ一丈ト語り其實功ノ短小ナルヲ見バ人其虛妄ヲ笑フノミナラズ復後ノ事ヲ信用セザルベシ言ヲ先ニ行ヲ後ニスルハ君子ノ恥ヅル所ナリ輕薄ナル者ハ動モスレバ人ニ對シテ己ガ志向ヲ談ジ我ハ如何ナル事業ヲ興サント欲スルナ

ド喋喋トシテ自示シ時過ギテ後絶エテ復言ヒ出サレバ或人其成否ヲ問フニ彼ノ事ハ已ニ意ノ如クナラズ今ハ更ニ此事ニ轉ゼリナド言ヒテ又自責ヲ塞グニ苦ム者アリ甚賤ムベシ

第七章

人ト談論シテ意見背馳スルニ彼ノ說非ニシテ我が說理ナル者アリ我が說非ニシテ彼ノ說理ナル者アリ或ハ彼ニモ一理アリ我ニモ一理アル者アリ其時我ハ理ニ當ランコトヲ求ムレドモ彼ハ只其言辭ヲ守リテ肯テ從ハズバ復強

ヒテ説カザルモ可ナリ、但是平常ノ談話ナリ、若
事ノ利害ニ臨ミテ、其正非ヲ辯ズルガ如キハ、必
カヲ極メテ、彼ノ非ヲ説破スベシ、然レドモ、口舌
ヲ以テ人ニ勝タント欲スルコトナカルベシ、

第八章

人ノ賢愚ヲ判スルヲ品評トイフ、今人古人ノ別
ナク、容易ニ之ガ品評ヲ下スベカラズ、古人ハ遠
ク千百年ヲ隔ツレドモ、之ヲ評スルハ易シ、今人
ハ近ク眼前ニ在リテ、行事ノ細大日に耳朶ニ上
ルト雖之ヲ評スルハ、反リテ難シ、古人ハ易ク、今

人ハ難キ所以ハ、古人ハ其跡遠シト雖、事已ニ定
リシ後ニ之ヲ窺フガ故ニ易シ、今人ハ其形近シ
ト雖、事未_モ其局ヲ結バザルガ故ニ難シ、抑人ノ是
非得失ヲ評論スルハ、亦廣識ノ一端ナレバ、之ヲ
議スルコト、宜シク公平ニシテ、苛酷ナルベカラ
ズ、其取ルベキ所ハ之ヲ取リ、其捨ツベキ所ハ之
ヲ捨テ、少シモ偏執スベカラズ、

第九章

古人ノ得失ヲ評論スルハ、今人ヲ議スルヨリモ
易シト雖、固ヨリ輕忽ニ定ムベカラズ、凡_レ古人ヲ

尚論セント欲セバ、其時勢ト遭逢トヲ熟察スベシ、國家將ニ興ラントスル時ニ當リテハ、諸事意ノ如ク行ハレテ、今名ヲ全クスル者アリ、國家將ニ亂レントスル時ハ、王佐ノ才、恢復ノ力ヲ具スル者ト雖、功名立タズシテ、終ニ失敗ヲ取ル者アリ、是必シモ賢愚邪正ニ關スル者ニアラズ、之ヲ判定スル、亦豈容易ナランヤ、

第十章

今人ノ得失ヲ評論スルハ、易キニ似テ難シ、賢者上ニ立夫、不肖者下ニ居ルハ、理ノ當ニ然ルベキ

所ナリト雖、或ハ賢愚地ヲ易フルコトナシトイフベカラズ、故ニ達スル者必シモ大賢ナラズ、窮スル者必シモ極愚ナラズ、其人實ニ賢ナラバ、窮スト雖、貴ムベク、其人實ニ不賢ナラバ、達スト雖、恐ルベカラズ、況ヤ人ノ窮達ハ、得テ測ルベカラズ、今日窮スト雖、明日達シ、今日達スト雖、明日窮セザルヲ保シ難キヲヤ、之ヲ評スルハ、只人品ノ如何ニ在ルノミ、

第十一章

面前ニ譽ムル者ハ、佞諛ニ近シ、背後ニシテ之ヲ

譽ムレバ人必喜ビ感ズ面前ニ毀ル者ハ忠直ニ
近シ背後ニシテ之ヲ毀レバ人必怒リ怨ムトイ
ヘリ人ヲ譽ムルハ面前ニセンヨリハ寧_ニ背後ニ
スベク人ヲ毀ルハ背後ニセンヨリハ寧_ニ面前ニ
スベシ人ヲ毀ルハ固ヨリ謹ムベシ人ヲ譽ムル
モ亦輕シクスベカラズ稱揚實ニ過グルハ其人
ニ害ナシト雖_モ己ガ識見ニ關ス毀譽ノ言妄ニ之
ヲ發スベカラズ

第十二章

背後ノ毀ハ禍機ノ伏スル所ナレバ深ク之ヲ省

察スベシ若人アリテ某ハ奸ナリ某ハ癡ナリト
説カバ耳ニ聞クトモ口ニハイフベカラズ卒然
之ニ應ジテ然リ奸ナリ然リ癡ナリトイハズイ
ツカ某ノ聽ク所トナリテ終ニ不測ノ仇怨ヲ結
ブベシ古ノ人人ノ短ヲイフヲ名ヅケテ種禍ト
イス宜ナルカ大故ニ云久前人ノ長短ヲ説クコ
トヲ休メヨ自家ノ背後ニ眼アリト是語箴トス
ベシ

第十三章

我が親族故舊ノ行狀ニ就キテ非ナル事アラバ

速ニ之ヲ忠告善導スベシ、諫言ハ忠愛ニシテ婉
曲ナランコトヲ要ス、若其過失ヲ責ムルコト、恰
モ法官ノ囚人ヲ治ムルガ如ク、其首尾ヲ捕ヘテ
之ヲ詰難シ、聽ク者ヲシテ身ヲ容ル、ノ地ナカ
ラシメバ、彼其理ニ屈スト雖、反リテ憤恨ノ心ヲ
抱クベシ、故ニ諫言ハ、婉曲ニシテ、心服セシムル
ヲ善シトス、

修身訓範卷一終

土
修身政訓孝範述
四刻
卷二

K110.1
1036
2